

令和7年度 東京都立田柄高等学校 学校経営計画（暫定版）

今年度着任の校長としては、本校のスクールミッションとスクールポリシーを踏まえたこれまでの教育活動の成果と課題を参考に継続性のある学校経営を念頭に置いている。しかし「Step Forward!2.0」に示された本校のミッション「多文化共生社会東京の中核となる人材の育成」の具現化については、生徒の実態や教育活動を見ずに方針を示すことができない。

また、令和6年3月28日策定の東京都教育ビジョン（第5次）ならびに令和7年3月28日策定の東京都教育施策大綱を踏まえて本校の中長期的な目標を明確にしていくために、今年度学校経営計画は昨年度の経営計画を踏襲した「暫定版」を示し、9月1日に「完成版」を策定するものとする。

スクールミッション	「規律ある学校生活の中で、確かな学力を身に付け、国際社会に生きる広い視野をもった人を育成する」を目指し、国際交流や異文化理解、日本の伝統・文化など国際理解教育を充実させ、多角的なものの見方や考え方を身に付け、国際社会に貢献し活躍する生徒を育成します。
グラデュエーション・ポリシー	「TAGARA から世界へ！ TAGARA から未来へ！」 1 規律ある学校生活 Step forward!前を向こう！ ①社会に信頼される人 ②たくましく生きる力を身に付けた人 2 確かな学力 Look up!上を目指そう！ ①基礎的な知識・学力のある人 ②向上心をもつ人 3 国際社会に生きる広い視野 Think globally!視野を広げよう！ ①多角的な視点をもつ人 ②変化に適応することができる人
カリキュラム・ポリシー	1 学校全体で目指す多文化理解 複数の外国語選択科目の設置や、異文化理解の事業を継続するとともに、生徒の国際感覚を養い、外国籍生徒の活躍の場を拡充していきます。また、外国籍生徒を全クラスに配置することで双方の交流等を促進し、日本文化への理解及び日本語能力の向上を図ります。 2 幅広い学力層への対応 入学する生徒の学力層が幅広く、希望する進路も多様となっています。このような幅広い学力層の生徒に対して、教育課程を統一することにより充実した多展開授業及び生徒の学力に応じたきめ細かな指導を実施し、生徒全員の学習機会と進路を保障していきます。
アドミッション・ポリシー	本校では、生徒一人一人の関心、適性、能力に合うよう、習熟度別・少人数授業を数多く取り入れ、きめ細かい授業を展開しています。また、地域に根ざす学校として社会に貢献できる生徒の育成を目指すとともに、国際理解教育を推進しています。このような特色のある本校で、以下のことをよく理解している生徒の入学を期待します。 1 規則を遵守し、自発的・主体的に考え行動できる生徒 2 学習に真剣に取り組み、自らの進路を切り開いていこうとする生徒 3 学校行事、委員会活動、部活動、ボランティア活動等に積極的に取り組む生徒 4 国際交流や日本の伝統・文化の授業に積極的に取り組む生徒

I 学 習 指 導	中期的目標と方策	
	社会的自立に必要な「知」「徳」「体」の育成 ① 1 全教科で、多角的な視野に立つ様々なものの見方考え方を習得させ、言語能力の向上、論理的思考力や国際社会に貢献できる資質・能力の育成を図る。 2 学校2020レガシーに基づき、ボランティアマインド、豊かな国際感覚、日本の伝統・文化への理解など、多文化共生社会の中核人材としての資質・能力の育成を図る。	
	今年度の取組目標と具体的方策	関連する数値目標
	探究的・協働的な活動による学び合いの推進 ① 生徒による授業評価・校内研修・相互授業参観の実施により授業改善を行う。 ② 図書館や一人1台端末等を活用した探究的な学習及び協働的な学習により、生徒同士の学び合いを推進する。 ③ 一人1台端末の活用、少人数・習熟度別学習やきめ細かい学習指導、外国籍生徒等への日本語指導を展開し、特別な支援を必要とする多様な生徒に対応する。 ④ 教科の補習・放課後講習・長期休業期間中の講習実施、各種検定受検指導等の充実により生徒の学習時間の拡大を図る。 ⑤ スキルアップ推進校事業「グローバルスキル講座」及びJET	教員相互授業参観 年5回以上／人 授業実践校内研修 年20回以上 国際交流 年2回以上 長期休業日中の講習 20講座以上 150人以上 オンデマンド講座の開催 30講座以上 各種検定受検指導 年20回 英検・漢検（準2級以上）及び 日本語能力試験（N3）等検定合格 年30人以上 生徒授業満足度 90%以上
	主な推進所管・担当	

	を活用した実用英語技能検定受験支援を行う。 ⑥ スキルアップ推進校事業「デジタルスキル講座」を活用し、基礎的スキルの習得を図る。 学校 2020 レガシーへの取組 ① 学校設定教科「グローバルスタディーズ」や東京体験スクールなどの国際交流により世界的課題への関心を高める。 ② 学校設定科目「日本の伝統・文化」により日本の伝統・文化への理解を深め、国際人としての素地を養う。 ③ 地域と連携し、ボランティアマインドの醸成、障害者理解、豊かな国際感覚を育む活動を行う。	各教科、各学年、進路指導部、教務部、日本語指導コーディネーター
--	--	---------------------------------

II 生 活 指 導	中期的目標と方策	
	社会的自立に必要な「知」「徳」「体」の育成 ② 1 規律ある生活習慣と自ら考え行動できる力を身に付け、自立した社会の一員として国際社会を生きるために必要な資質・能力を養う。 2 多様な生徒が在籍する本校における人権教育を推進し、多文化共生社会東京の中核人材を育成する。	
	今年度の取組目標と具体的方策	関連する数値目標
	規範意識の醸成と主体性の育成 ① 都立高校生活指導指針及び生徒指導提要に基づく生活指導を行う。 ② 規律ある生活習慣の確立と規範意識向上を目指し、遅刻指導、身だしなみ指導等を行う。 ③ 生徒会、委員会、部活動等、生徒が主体となる活動を促進し、生徒の主体性・協調性・実行力を養う。 ④ 関係機関と連携し、薬物乱用防止教室、セーフティ教室及び自転車通学指導（ヘルメット着用指導等）を行う。 ⑤ 防災サポートチームを活用した防災教育を行う。 ⑥ 生徒・保護者とともに校則の点検と見直しを行う。 人権教育の推進 ① いじめや生命に関わる事故未然防止ため、SNS ルールや SOS の出し方（相談窓口）の周知徹底、スクールカウンセラー・ユースソーシャルワーカー・専門医派遣事業等を活用する。 ② 人権講話及び人権教育プログラムを活用した校内研修により校内の人権意識の向上を図る。 ③ 制服の自由選択制等、多様性に配慮した対応を行う。	遅刻者数の HR 平均 3 人以下／日 部活動の加入率 50%以上 問題行動抑止 特別指導件数 年 20 件以下 校内美化キャンペーン実施 年 3 回 生活指導方針 ホームページ等で公表 地域と連携した防災活動 年 1 回以上 体罰事故防止研修の実施 年 3 回以上
		主な推進所管・担当
		各学年、各教科、生徒部、総務部、防災教育推進委員会

III 進 路 指 導	中期的目標と方策	
	社会的・職業的自立意識の醸成 1 3 年間を見通したキャリア教育実践、放課後講習や長期休業日中の講習等を通して生徒の学習意欲を向上させることで能力を引き出し、より高い進路目標の設定と実現、卒業時の進路決定率の向上を図る。 2 多文化共生社会の中核人材となりうる日本及び日本以外の国や地域に繋がりをもつ生徒の進路実現を支援する。	
	今年度の取組目標と具体的方策	関連する数値目標
	外部機関と連携したキャリア教育 ① キャリアデザイン I、II、III によるキャリア教育実践で進路意識の向上を図る。 ② 多言語による情報提供、ハローワークと連携した相談体制等、多様な生徒に寄り添った取組を行う。 ③ スキルアップ推進校事業と JET を活用した英検指導、模擬試験や資格検定試験を活用した指導の充実を行う。 ④ 学年、分掌・委員会、特別支援教育心理士、スクールカウンセラー及びユースソーシャルワーカー（1 名）の連携により、多様な生徒の進路実現を図る。 ⑤ スキルアップ推進校事業を活用したインターンシップによりビジネスコミュニケーションスキルの向上と職業観の育成を図る。 ⑥ 入国管理局及び NPO 法人等外部支援団体と連携し、在京外国人生徒への進路支援を行う。	三者面談の全員実施 自習室活用 200 名以上 大学合格者 30 名以上 進路決定率 90%以上 職場体験・企業見学等参加者 80%以上
		主な推進所管・担当
		各学年、各教科、進路指導部、自立支援担当

IV 特別活動・部活動・健康づくり	中期的目標と方策	
	学校行事の充実と部活動の振興 1 体育祭や文化祭、修学旅行、英語暗唱大会、日本の伝統・文化発表会、百人一首大会等の多様な学校行事をととして、平素の学習活動の成果を活かすとともに、自主的・主体的な実践力や協働する力等を高め、規律ある学校生活を充実させる。 2 生徒の自主的・自発的な参加によりスポーツや文化等に親しむ活動として、地域行事への貢献等、地域との連携を図りながら、部活動の振興を図る。 3 儀式的行事の適正な実施 学校生活に有意義な変化や折り目を付け、新しい生活に向けた希望・意欲を新たにもちながら厳粛な中で規律ある態度で臨むなど、儀式的意義を踏まえた指導を適切に行い、儀式的行事を適正に実施する。 体力向上・健康づくりの取組 1 体育の授業や体育的行事、部活動をととして、運動意欲や体力、基礎的な運動能力、競技力の向上を図るとともに、安全管理や食育により、生涯にわたる健康づくりの推進を図る。 2 学校保健活動及び教育相談活動を充実させ、生徒一人一人に届く心身の健康づくりを推進する。	
	今年度の取組目標と具体的方策	関連する数値目標
	学校行事の充実と部活動の振興 ① 学習の成果発表として、体育祭、ロードレース大会、英語暗唱大会、百人一首大会、日本の伝統・文化発表会等を実施する。 ② 学校行事や部活動等の特別活動の充実により、主体的な実践力と協働する力を養う。 ③ 「部活動に関する総合的なガイドライン」に基づく指導を強化するとともに、各部活動において事故防止対策を徹底する。 ④ 学校 2020 レガシーの一環としてボランティア活動等、地域と連携した活動を行う。さらに「笑顔と学びの体験活動プロジェクト」を活用した取組を行う。	英語暗唱大会 年 1 回 日本の伝統・文化発表会 年 1 回 百人一首大会 年 1 回 2020 学校レガシー講演会 年 1 回 ロードレース大会の実施 年 1 回 部活動顧問会議 年 5 回 学校保健委員会 年 2 回 安全衛生委員会 年 12 回 コンディションレポートを活用した健康観察・消毒の実施 通年
	健康づくり	主な推進所管・担当
	① 学校保健委員会、安全衛生委員会を確実に開催し、産業医からの必要な助言・指導を受ける。 ② 日本語を母語としない生徒に配慮した対応と情報発信を行う。 ③ 熱中症予防、感染症対策、アレルギー対応等について校内研修を実施し、安心安全な教育活動を推進する。 ④ 産婦人科医等による保健講話を実施し、からだに関する正しい知識を身に付けさせる。 ⑤ 学校設定科目「グローバルスタディーズ」により、SDGs「すべての人に健康と福祉を」についての学びと体験を行う。	各学年、各教科、生徒部、総務部、各部活動顧問

V 募集・広報活動	中期的目標と方策	
	魅力ある学校づくりと魅力の発信 1 「『入れる学校』から『入りたい学校』へ」を合言葉に、学校環境・教育内容の改善・充実を図り、積極的な募集・広報活動を展開する。 2 ユニバーサルデザイン（ユーザビリティ・アクセシビリティ）の観点から、多様な志願者のニーズに応えるよう募集・広報活動を創意工夫する。	
	今年度の取組目標と具体的方策	関連する数値目標
	『入りたい学校』を目指した魅力発信	ホームページ更新 年 150 回以上 学校見学会・説明会実施 年 10 回以上 学校だよりの発行 年 10 回 学校説明会来場者 年 800 人以上 中学校・塾訪問 年 100 校以上
	① 平易な日本語やルビ対応の他、多言語による情報発信を行う。 ② ホームページの他、X (旧 Twitter) 等、即時性のある情報発信ツールを活用する。 ③ ユニバーサルデザインの視点からホームページ・学校だより・学校案内パンフレットの改善を図る。 ④ 学校見学会・学校説明会・個別相談会・中学校訪問・塾訪問の他、在京外国人生徒向けの相談会（説明会）等を行う。 ⑤ 令和 7 年度都立高校 EXPO での情報発信 ⑥ 出身中学校別在籍生徒数及び中学校のニーズ(よりよい時期、必要な情報等)を把握しスケジュールの見直し等改善を図る。 ⑦ 都立高校魅力発信事業 (PR 動画やフォトギャラリーなど) を活用した広報活動を行う。	主な推進所管・担当 総務部、コンピューター委員会

VI 教育課題	中期的目標と方策	
	ダイバーシティとインクルージョン（多様性への寛容さ）の推進 1 多文化共生社会の中核人材の育成を目指し、多様な生徒への組織的な支援体制を構築する。 2 校内特別支援教育推進体制を充実させ、自立支援チーム、スクールカウンセラー、ユースソーシャルワーカー、専門医、特別支援教育心理士等の活用により、個々の生徒理解、対応を図り、中途退学・不登校を防止するなど、すべての生徒が安心して通える学校環境を構築する。	
	今年度の取組目標と具体的方策	関連する数値目標
	日本語を母語としない生徒への支援 ① 日本語指導推進校事業において日本語指導コーディネーターを中心に対象生徒への支援を行う。 ② オンラインアセスメントテスト等を活用し、習熟度別放課後日本語指導を行う。 ③ 個別の指導計画と面談等により進路実現への支援を行う。 ④ 複数副担任制（1クラス2人）を導入し、ホームルーム活動への支援を行う。 ⑤ 学力向上研究校「校内寺子屋」の取組を推進し、基礎学力の向上と定着に努める。 個別の支援の推進 ① 特別支援教育理解啓発事業の参加と特別支援教育コーディネーターの資質向上を図る。 ② 自立支援チーム、スクールカウンセラーを活用し、不登校・中途退学者対策への支援・対策を図る。 ③ スクールカウンセラー、ユースソーシャルワーカー、専門医・特別支援教育心理士等を活用した教育相談体制により、個別面談や多様な生徒への生活指導を行う。 ④ 通級による指導を必要とする生徒への校内体制を整える。 ⑤ 拡大する生徒の多様性に対応した指導・評価の在り方の検討 ⑥ <u>制度改正を受けた不登校生徒の「学び保障」の具体化の検討</u>	日本語指導に関する授業研究等 年5回以上 オンラインアセスメントテストによる日本語能力の把握 年2回以上 学力向上研究校「校内寺子屋」 3教科（国・数・英） 自立支援チームによる相談 年150回以上 生徒の進路変更（転・退学） 年30人以下 都立版エリアネットワークを活用した連携 年5回
	主な推進所管・担当	
	各教科、教務部、生徒部、自立支援担当、特別支援教育コーディネーター、日本語指導コーディネーター	

VII 学校経営・組織体制	中期的目標と方策	
	学校経営における組織力の向上 1 学校の組織的経営と効率化、事務業務の機能の充実と効率化及び学校経営計画に基づく予算編成・執行を行う。 2 学校運営連絡協議会の充実と地域連携の強化により、課題解決に向けた適正な学校経営の改善と意思決定を行う。 3 教職員の働き方改革を行い、ライフ・ワーク・バランスに基づいた勤務を推進する。	
	今年度の取組目標と具体的方策	関連する数値目標
	組織力の向上 ① 企画調整会議を柱とした学校運営と組織的OJTにより人材育成を行い、課題解決に向けた組織体制を確立させる。 ② 職員室と経営企画室との連携、事務円滑化、学校経営目標に基づく予算編成と執行等による経営企画室の経営参画を図り、全教職員の協力体制を構築する。 ③ 地域青少年対策地区委員会、警察署、消防署他、関係諸機関等、地域との連携を強化する。 ④ <u>「メンター制度」を活用した新規採用教員の支援と育成</u> 服務事故防止 ① 保有個人情報の安全管理に関する基準等を基に事故未然防止に向けた取組を全職員で行う。 ② わいせつ・体罰等について生徒・保護者への相談窓口の周知と職員への校内研修及び面談等により、未然防止に取り組む。 ③ 入学者選抜業務において、過去の事例やヒヤリハットを基に、校内体制の点検を行い適正に実施する。 働き方改革・執務環境改善 ① 産業医との連携により、安心して働ける環境づくり、メンタルヘルス対策及びライフ・ワーク・バランスを推進する。 ② テレワークの推進により長期休業期間中の業務の効率化と育児・介護との両立を支援する。 ③ 複数副担任制により担任業務への組織的な支援を行う。 ④ 汚損箇所修復、校内環境整備や校舎老朽化への対応等、学習環境及び執務環境の改善を図る。	地域連携活動 年3回以上 一般需用費のセンター執行率向上 60%以上 学校事故苦情ゼロ、服務事故ゼロ 学校満足度 生徒・保護者 80%以上 校舎老朽化・危険箇所の速やかな対応 服務事故防止研修の実施 年3回以上 メンタルヘルスケアに関する取組 年6回以上 教職員アウトリーチ型相談事業 全教員が1回面談 <u>勤務時間外の在校時間「月45時間超」教員ゼロ</u>
	主な推進所管・担当	
	各学年、各分掌、各委員会及び経営企画室	